

大和川水系の整備推進について

【担当省庁】国土交通省

市町村における取組

<現状と課題>

奈良盆地での降雨は放射状に広がる多くの支川が本川である大和川に集中し、県境の亀の瀬渓谷を経て大阪平野へと流れている。亀の瀬地区の狭窄部により大和川上流部がせき止められ、急激な水位上昇と内水浸水を起こす特徴がある。

特に昨今は、局地的、記録的な豪雨が多発しており、早急な災害の事前対策が重要な課題となっている。

また、亀の瀬地区地すべり対策事業は、1/100確率降雨時の地下水位を想定し、斜面の安定化を確保するための対策工事が実施され、平成22年度までに主な対策工事を完了していただいた。現在は局所的な変異が見られる稲葉山地区において、引き続き対策工事を実施していただいている。

しかしながら南海トラフ巨大地震や大和川断層等における地震が想定され、当該地区直上流に位置する当該自治体としては、強い危機感を持たざるを得ない。

各自治体では遊水地の整備が計画されており、地元自治会との協議や説明会（勉強会）の開催などを通じて、事業主体である大和川河川事務所と連携し、本整備計画促進に向けて協同に努めている。

<大和川流域の特性>

- 三郷町・王寺町は奈良県内の大和川流域712km²の出口
- 奈良県内の支川158河川を合流し大阪へ流れる
- 府県境には地すべり地の亀の瀬地区が存在



これまでの被災状況

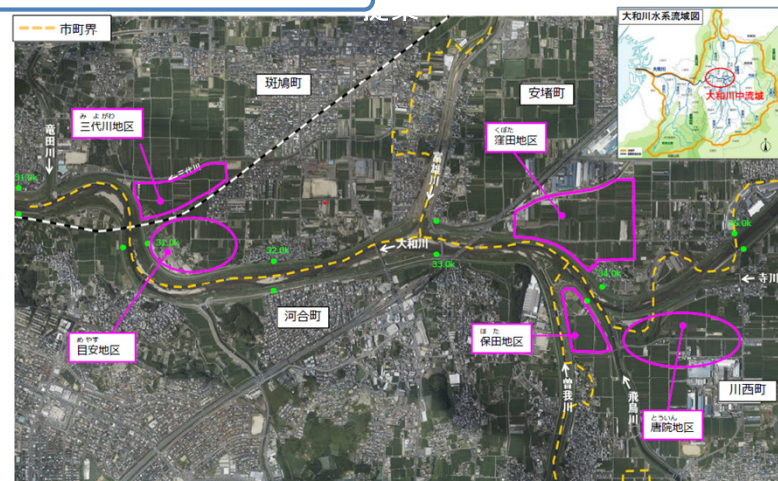
昭和57年 水害
浸水した王寺駅前商店街



平成29年台風21号による出水
藤井水位10.16m(過去最大)を
観測後計測不能



遊水地事業計画について



国にお願いすること

- 『大和川流域治水整備事業』による立野・藤井地区河道掘削、遊水地事業及び佐保川改修をはじめとする大和川中流部の治水対策の着実な推進
- 気候変動による異常気象等への対応、及び南海トラフ地震等により、亀の瀬狭窄部の河道閉塞が発生した時の対策として、地下河川などの検討も含めた大和川水系河川整備計画の早期の見直し
- 堆積土砂撤去や樹木伐採など河川維持管理の継続的な実施